

[野菜部門 令和6年度 参考となる研究成果]

事項名	メロンの炭腐病に対する生物的及び耕種的被害軽減対策（追加）		
ねらい	メロンの炭腐病に対して、各種対策を検討したところ、土壌改良資材の灌注、作期の移動、緑肥のすき込み等の有効性が明らかになった（令和5年度参考となる研究成果）。そこで、これらの対策を併用した場合の効果を実証したので、参考に供する。		
内容	<p>1 緑肥のすき込み、土壌改良資材の灌注処理、作期の移動を総合的に組み合わせること で、被害軽減効果が向上する（図1、2）。</p> <p>(1) 緑肥のすき込み 栽培終了後、からしな「辛神」を9月上旬までに播種（1kg/10a）し、ごく浅くロータリがけする。播種の約2か月後の着蕾期から開花始期（目標生草収量4t/10a以上、目安は草丈1m以上）にすき込みを行い、被覆又は鎮圧する。なお、施肥量はNPKで各8～10kg/10a前後（残肥が多いときは減肥あるいは無施肥）とする。</p> <p>(2) 有用微生物入り土壌改良資材の灌注処理 ア 資材名：トリコデソイル（トリコデルマ・ハルジアナム 1.0×10⁹孢子/g） イ 処理方法：鉢上げ時に苗灌注（50g/1,000株）を行うとともに、定植前又は定植後速やかに灌水チューブによるマルチ下の灌注（250g/10a）を行う。 ウ 灌水量の目安：苗灌注は2,000倍希釈液を0.1L/株、マルチ下の灌注は8,000倍希釈液を2.0L/m²とする。</p> <p>(3) 作期の移動 病原菌の活動が活発になる盛夏期（高温期）をなるべく避けるため、収穫時期の早い作型に作期を移動し、できるだけ早期に定植する。</p>		
期待される効果	メロンの炭腐病の被害が軽減され、良品質安定生産に寄与する。また、メロンの炭腐病菌は500種以上に寄生するため、メロン以外で被害が発生した場合でも、本法の応用が期待される。		
利用上の注意事項	<p>1 生物的及び耕種的対策は、一般的に化学的防除よりも効果が劣るため、発生圃場によって導入可能な対策を総合的に組み合わせる。</p> <p>2 残肥の多少については、土壌診断により確認する。</p>		
問合せ先（電話番号）	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域のメロン作付経営体
発表文献等	令和4～5年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

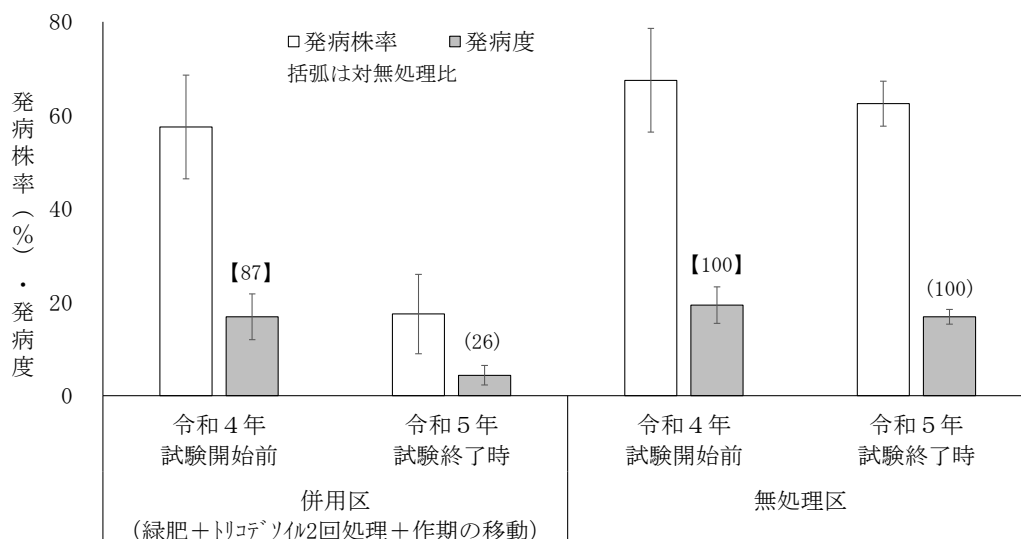


図1 耕種的対策及び生物的対策の併用によるメロン炭腐病の被害軽減効果 (令和4～5年 青森農総研)

- (注) 1 区制：1区10株、4区制、所内ハウス圃場試験。
 2 併用区：令和4年9月8日に「辛神」(1kg/10a)を播種、11月11日にすき込み、12月12日まで被覆。令和5年5月9日定植。トリコデソイル処理は、4月18日の鉢上げ時の苗灌注(2,000倍希釈液、0.1L/株)及び5月9日(定植直後)の灌水チューブによるマルチ畝内灌注(8,000倍希釈液、2.0L/m²)の2回。
 3 無処理区：緑肥なし。令和5年5月31日定植。トリコデソイル無処理。

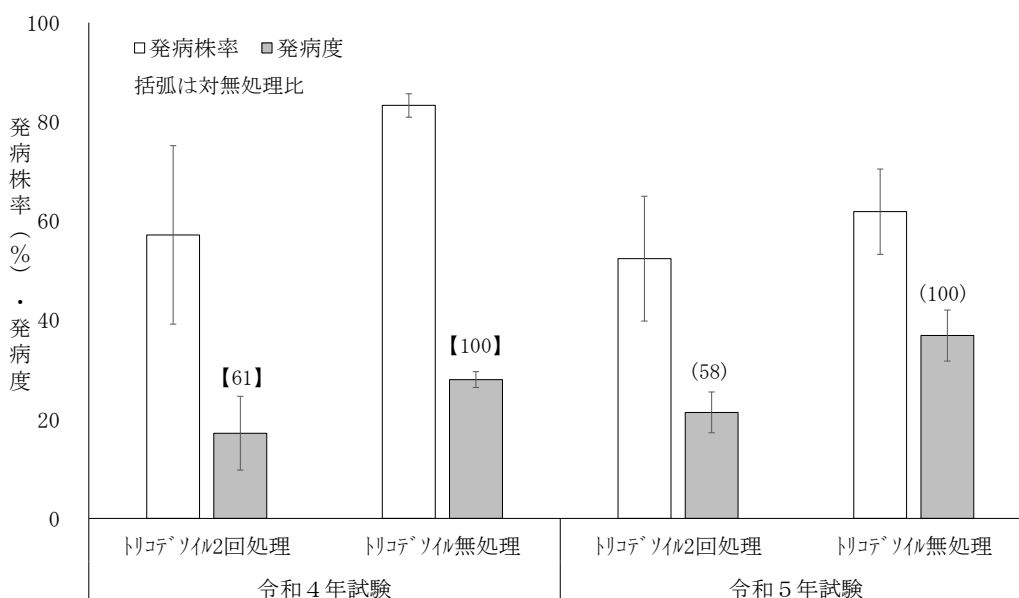


図2 耕種的対策に生物的対策を併用した場合のメロン炭腐病の被害軽減効果の向上 (令和4～5年 青森農総研)

- (注) 1 区制：1区14株、3区制、つがる市(炭腐病発生圃場)
 2 令和4年試験：令和3年秋に圃場全面に緑肥処理。令和4年5月11日定植。トリコデソイル処理は、4月18日の鉢上げ時の苗灌注(図1と同じ)及び5月14日(定植3日後)の灌水チューブによるマルチ畝内灌注(図1と同じ)の2回。
 3 令和5年試験：令和4年秋に圃場全面に緑肥処理。令和5年5月11日定植。トリコデソイル処理は4月12日の鉢上げ時の苗灌注(図1と同じ)及び5月26日(定植15日後)の灌水チューブによるマルチ畝内灌注(図1と同じ)の2回。